

NEWS LETTER

日本看護研究学会
近畿・北陸地方会世話人代表を承って
阿曾洋子（大阪大学）

今期の近畿・北陸地方会の世話人代表選挙で、もう一期世話人代表を務めさせていただきます。今期も引き続き、第24回および第25回の近畿・北陸地方会学術集会の開催や、近畿地方と北陸地方での看護研究継続セミナーの開催、そしてホームページの充実等を図っていきたいと思っております。

近畿・北陸地方会の発展には、会員の皆様方と世話人の方々の意見と運営の一致協力が欠かせません。そのためには、会員の皆様方には本地方会の企画運営に関しまして、忌憚のないご意見をいただければ大変嬉しく思います。

私は、本地方会の発展に伴って、看護の質も向上することを願ってやみません。皆様方、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「看護の専門性を社会に生かす」 第24回近畿・北陸地方会学術集会が富山で開かれます

近畿・北陸地方会学術集会長 八塚美樹（富山大学）

近畿・北陸地方会の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第24回近畿・北陸地方会学術集会を2011年4月16日（土）、富山国際会議場で開催する運びとなりました。

高度医療技術の発展に伴う高度専門分化される医療に伴い看護実践の領域や分野は多岐にわたり、その専門性も多様化してきています。そこで、本学術集会は、個別多様化する看護の対象への優れた看護実践を社会に還元するという意味から「看護の専門性を社会に生かす」をテーマに掲げました。

シンポジウムでは、「その人らしい最期の迎え方と看護の専門性」をテーマとして、がん看護領域で活躍しておられる小児看護専門看護師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師の方々の高度専門性を有する看護実践のわざと戦略について話し合ってください。

地方会開催のときは、ちょうど富山の桜が満開の頃です。お天気が良ければ立山連邦も美しく、日本海でとれたときどきの魚料理が楽しめます。学会耳寄り情報を別紙に添えました。どうぞ皆様のお越しをお待ちしています。



第24回地方会学術集会会場風景



第24回近畿・北陸地方会 学術集会のご案内

日 時：2011年4月16日（土）
10：00～15：00

会 場：富山国際会議場

<http://www.ticc.co.jp/>

テーマ：看護の専門性を社会に生かす

当日参加費：一般5,000円

学生1,000円

近畿・北陸地方会とは？

近畿・北陸地方会事務局 伊部亜希

日本看護研究学会には近畿・北陸地方会以外に、北海道・東海、中国・四国、九州・沖縄の4つの地方会があります。親学会の活動とは別に、地域に根ざした独自の活動をしています。

近畿・北陸地方会はその地方会の中のひとつで、滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・福井・富山・石川を拠点に活動しています。親学会の会員5700人の内、1500人余りが、近畿・北陸地方の会員です。

本地方会は、学術集会の開催、看護研究継続セミナーの実施、ホームページの充実、ニュースレターの発行を事業として行っています。学術集会は毎年開催していますが、近畿と北陸で交互に開催することで、多くの会員が研究成果を発表・共有する場になっています。また、看護研究継続セミナーは近畿、北陸でそれぞれ年に1回ずつ、計2回実施しており、臨床の看護研究を支援するものとして、会員の皆さまの好評を博しています。さらに、ホームページにおけるリレーブログや、全会員へのニュースレターの発行によって、会員間での情報共有や相互交流を可能としています。このように、本会は多くの事業を通じて、地域における看護の質向上に貢献できるよう活動しています。

<事務局便り>

2010年4月から下記住所に事務局が移転しました。

一般社団法人 日本看護研究学会

近畿・北陸地方会事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻内

電話&FAX：06-6879-2535

（新田紀枝・伊部亜希）

E-mail:norien@sahs.med.osaka-u.ac.jp

第12号のニュースレターは、「会員と地方会の諸活動を結びつける；アクセシビリティ（accessibility）の向上」をテーマに作りました。今後も会員の皆様にご有用な情報をお届けするとともに、皆様のニーズとウォンツに答える紙面作りをしていきたいと思っております。皆様のご意見、原稿投稿をお待ちしております。

●特別寄稿

看護研究継続セミナー「中身拝見！」

一ノ山 隆司（富山福祉短期大学）

今回、会員の皆様から「看護継続セミナーの講演内容（セミナーの中身）を知りたい」との要望がありまして、この紙面にてセミナーの内容（研究計画をわかりやすく書くための基本的な知識）を紹介いたします。実は、この講演は2年連続でして、第9回のセミナー（平成21年、福井県）も担当しました。テーマは、「楽しいから学びたい」のモチベーションを大切にしてきた経験を生かしながら「楽しく書ける研究計画書」と題して進めました。その概要は次の通りで、3分でわかる研究計画書の書き方です。



講演は「そんな講義があれば受けない、そんな魔法のような本があれば、真っ先に買いに行きたい」で始まり、楽しく書けるためのプロセスをしっかりと学ぶことをコンセプトにした内容（看護実践の基礎となる科学的な知識体系を発展させるために看護研究方法の基礎を学ぶ）です。具体的には、看護研究の目的や意義、プロセス、方法、研究倫理、研究論文のクリティークの方法を学び研究論文をクリティークし、研究への取り組みに向けて自らの研究疑問を明確にし、研究計画書を作成に至る過程についてです。

アインシュタイン（Albert Einstein）の「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望を持つ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に、陥らないようにすることである」の名言を示しながら研究と結びつけて説明しています。「よい研究は研究計画書から」の定説があります。その前には、疑問、動機が必要で、興味・関心をもつには疑問、動機があります。そして、興味・関心は対象を捉えるための動機になっています。つまり、研究とは、興味・関心のある対象である事象をもとに、一般的な結論を導く過程となり、必然的に興味・関心を抱いたことを、いろいろと調べて共通・相違点を明らかにします。これらのことを研究計画にできるだけわかりやすく表現していくことが研究計画書になります。講演ではその内容に関して効果的なプレゼンテーションの観点から見てもらえるスライド作りに配慮し、特に話が難しくならないようにユーモアを交えて和気藹々とした雰囲気的大事にしながら参加者が第2部のグループワークに移行しやすいように心がけました。

●会員と会員をつなぐ

リレーブログ企画担当よりのお知らせ

「リレーブログ」やっています！

上野栄一（福井大学）

リレーブログとは？

リレーブログは、平成22年5月に開設しました。本ブログの開設は地方会の世話人会で決定しました。本ブログは、日本看護研究学会会員同士の看護研究に関するコミュニケーション（交流）の場としています。学会では、初の試みではないかと思えます。会員であれば誰でも参加できます。リレーブログは、一人の会員が書いた後に、次に書く人を指定して順番に興味、関心のあることを語る場です。

リレーブログのおもしろさ

リレーブログのおもしろさは、自由に研究に対する自分の意見を述べることができ、また、自分の意見に対して、会員の皆様から意見をいただけることです。なんとと言っても共有する仲間も増え、研究に対するモチベーションも高まると思えます。また、共同研究に発展することも考えられます。

リレーブログへの参加の仕方

本ブログが研究の活性化のみならず学会の活性化、学会員の交流ができればと考えています。会員のブログを見て、研究に対するご意見、感想などがあれば、投稿した本人に意見を送ることもできます。参加は、日本看護研究学会のホームページ（http://www.jsnr.jp/kinki_hokuriku/blog/blog.html）から近畿・北陸地方会を開いていただき、リレーブログをクリックすると画面が開きます。それぞれの投稿者のEメールをクリックすることで、会員と意見を交換することができます。

このブログは会員の皆様とともに築き上げていくものです。また、看護の質の向上にも一役になうことが期待されているところです。

本ブログに是非御参加ください。また、ご声援のほどよろしく申し上げます。

●未来の会員と地方会をつなぐ

看護学生投稿 学会探検

—第23回近畿・北陸地方会学術集会に行ってきました—

原 郁乃（京都府立医科大学医学部看護学科3年生）

ゼミの先生から学会のバックヤードも含めて探検に行きましょうとお誘いがあり、生まれて初めて看護の学会に参加しました。そして、多くの看護師さんが看護技術や理論・知識の発展をどのようにして吸収しているかが分かりました。看護は、臨床で工夫した技術や知識・考え方を患者さんに提供するもので、「サービス」という概念が強いように感じています。しかし、画期的な技術であっても企業のように容易に宣伝できるわけではなく、ともするとある病院の、ある〇〇科の、ある人にとのみという内々でしか成り立っていないということもあるのではないかと感じていました。しかし学会で発表することで一人のナレッジが看護界のナレッジになっていくのだということが分かりました。企業のように売り込む商品とは違いますが、看護という分野も患者さんに提供する看護技術や知識はより良いものを持つて日々工夫と開発をしていかなければならないと改めて感じました。そして、学会参加者全員が、真剣にプレゼンを聴き、質問し、自分の糧にして、今後の看護に活かせるようにしていることがわかりました。学会運営の先生方、見学をさせていただきありがとうございました。

